

新年の五穀豊穰を願い「弥生画」奉納

当町の元町弥生会（小関優会長）と山道町内会制作委員会（澁谷信一委員長）が、五穀豊穰を願い、穀物の種子を使って描く「弥生画」を制作し、昨年末、鶴田八幡宮と山道閼麗神社にそれぞれ奉納しました。

弥生画は飢饉による犠牲者が相次いだ江戸時代、村人たちが残り少ない種子を板に貼り付けて豊作を祈ったことが始まり。当町では約200年以上続く伝統文化となっており、穀物の種子を貼り付け、かつその色を生かして絵を仕上げるのが特徴です。

元町弥生会の題材は「大黒様と子」。昨年11月下旬から、会員が割り箸や竹串を使ってもち米やナタネなど10数種類の穀物を貼り付け、鶴田の象徴である鶴や新年の干支である「子」と「大黒様」を描きました。小関会長は「五穀豊穰を祈って作った。今後も伝統ある弥生画を続けていきたい」と話していました。

山道町内会の題材は「ねずみ長者」。おじさんが助けたねずみたちからお礼として打ち出の小槌をもらう場面が描れています。澁谷委員長は「今年は絵柄の関係で例年より使った種子の数や種類が多かったが、一粒一粒願いを込めて制作した。2020年も実り豊かな1年になってほしい」と話していました。

※弥生画は4月以降、道の駅つるた内大豆・米加工施設西側壁面に展示される予定です。4月以降、歴史文化伝承館に約1カ月間展示予定



△元町弥生会の弥生画「大黒様と子」



△山道町内会の弥生画「ねずみ長者」

鶴中バスケット部女子 東北新人大会優勝!!

鶴田中学校バスケットボール部女子が、1月11日～13日に秋田県横手市で開かれた「第8回チャンピオンズカップ横手東北中学校新人バスケットボール大会」で、この大会男女通じて県勢初優勝を果たしました。大会は東北6県から各2チームが出場し、自らの技術の向上や東北地区のチーム交流などが行われました。

1月23日（木）、選手たちは相川町長に優勝報告を行いました。齋藤のどか主将は「みんなで勝ち取った東北大会優勝なのでとてもうれしいです。中体連に向けて部員全員で頑張っていく」と語り、次なる目標に気合い十分でした。

相川町長は「皆さんの優勝を誇りに思っている。来年度の中体連に向けて、大きな目標を持って、日々の練習を地道に頑張ってもらいたい」とエールを送りました。



△東北大会優勝を果たし、次なる目標に気合い十分な鶴田中学校バスケットボール部女子